



千葉県 松戸市消防局
消防局長 佐藤 博俊

伝統と歴史が息づく街 まつど

松戸市は、千葉県北西部に位置し、都心から約20km、電車で約30分圏内という首都のベッドタウンとして発展してきた街です。

当市の面積は61.33km²で東西南北約11kmと、ほぼヒシガタ状にひろがり、現在約48万人の人口を有しています。

名所としては、第15代将軍徳川慶喜の実弟である徳川昭武の別邸「戸定邸」(国重要文化財)や虚無僧寺の「一月寺」、紫陽花や菖蒲の花で全国的に有名な「本土寺」などがあげられます。さらに東京都に隣接した「矢切の渡し」や伊藤左千夫の小説「野菊の墓」が知られています。

当局の体制は、1局3方面10消防署と全国的に珍しい体制を取り、501名の職員が勤務しています。消防団



戸定邸

は1団10方面隊(36分団)に585名(平成24年4月1日現在)の団員で組織され、職団員共々、日々変化する災害へと対応に努力しているところです。

消防指令業務の共同運用に向けて

千葉県では、消防指令業務の共同運用を北西部と北東部・南部の2ブロックに分け実施する予定です。

当局は、北西部ブロックの幹事市として、近隣の市川市、野田市、流山市、鎌ヶ谷市及び浦安市と共同で、



共同運用

関係市人口約150万人の共同運用を平成25年度から開始する予定であり、平成23年4月1日松戸市ほか5市消防指令事務協議会を設置し共

同運用に向けて準備しております。このことにより、今まで各消防本部で受信していた119番が、当局に設置される千葉北西部消防指令センターに集約され



松戸駅周辺(航空写真)

るため、災害情報の共有化が図られ、消防相互応援区域の災害に迅速な対応が可能となります。さらには、大規模災害や特殊災害に対して広域かつ組織的な活動を行うことが可能となり市民サービスの向上が図られます。

また、千葉県域で整備を進めている消防救急無線のデジタル化にあっても平成25年4月の運用開始を目指しており、当局においては、平成24年度中に各種デジタル無線機の整備を予定しているところです。

市民への誓い

当局は、平成23年度から平成32年度までの10年間で、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、「**松戸市消防局10年構想**」を策定いたしました。また、あらゆる災害に職団員が、市民との連携を強固にし、防災意識をより高揚し、地域の実情に沿った防火防災に取り組み、「安全で快適な生活環境の実現」を目指します。

この「松戸市消防局10年構想」の一課題として、地域防災力の向上があります。現在、市内の事業所・大学・高等学校との地域防災に係わる連携体制の確立が図られるように次世代の地域防災の担い手として、若年層の防災意識の醸成と自助・共助の重要性の理解を求められているところです。

我々職員一人ひとりには東日本大震災を鑑み、「我が街を守るためには、自主防災組織をはじめとする地域コミュニティが成育しないと実現し得ない。」という自覚を持ち、積極的に地域の連携、啓発活動及び協働を推し進めていきます。これからも、全ての職務を常に市民の目線に立って遂行する、温かい心の通った、市民と表裏一体となった消防行政を築きあげて参ります。